

座談会

「生命保険に関する作文コンクールの教育における効用」を柱に、当センターの活動にご協力いただいております4名の先生から、昨今のコロナ禍の状況とあわせて、作文に「取り組みきつかけならびに学校での具体的な進め方、各種サポートツールの活用状況等について伺いました。」

夏休みの課題の一つとして活用

司会…本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、会場とオンラインによる併用開催とさせていただきます。それでは早速ですが、本コンクールを取り上げていただいたきっかけや学校内での位置付けなどについてお話を伺います。

小野…3年生で夏休みの課題として、生命保険（本コンクール）か、税の作文かどちらかを選択させています。もちろん2つ書きたい人は2つ書いても構わないとしています。作文に取り組むにあたり、社会科の経済分野で生命保険について話をしています。マンガで生命保険を紹介した教材を用意してくれています。生徒に説明をしてあげないとなかなか書けないのが一番の課題と感じています。大藪…授業で保険の話がされているとのことですが、夏休みの宿題なので、その前に授業で説明されているのですか？

小野…教科書の中で説明する順番を変えています。経済分野は、本来は年度の後半になりますが、本校では、公民のスタートにしています。

久保田…本校に勤務した時から学校で



小野先生

去年の状況を見ますと、2・3年生も選択のうちの1つに入っている本コンクールを選択して引き続き取り組んでいる生徒が多いという印象です。

コロナ禍における中学生の変化

司会…続いて、コロナ禍における学校での活動状況や、コロナ禍により一層進んだと言われているデジタル化の影響など、学校の中でだけでなく学校外でも構いませんので、最近の中学生にこんな変化があったなど、お話を伺います。

小野…生徒たちの中ではSNSが必須になっています。生徒同士でグループを色々使い分けているようです。以前でしたら学校の様子を連絡帳とかで伝えていたのが、もうSNSで「今日の宿題何だったかな」とか、そのSNSの中に友達が存在するといった形になっています。

久保田…本校だけかもしれませんが、生徒が積極的にマスクを取らなくなっているなどということを感じています。無言で活動している体育だとか部活動だとか、掃除も無言でやっているんですけど、感染状況が落ち着いてきたときに、学校で「静かな時はマスクを外すように斡旋しよう」と言って活動していたんですが、いざやってみると全然外さなくて、みんなマスクの下を見られていない経験が多くて、なかなか自分に自信が持てないのかなと感じています。また、表立った目で見えるトラブルがない反面、SNSの中で、匿名で人を誹謗中傷するようなトラブルもあり、充たされない思いをネットであつつけているのかなというのはいすごく感じています。



久保田先生

松本…去年の1年生を見ると、すごく大人びた感じの1年生だなあという印象でした。色々なことが制限されて、「どうせこんなこと

- | | |
|----------------|----------------|
| 国立大学法人東海国立大学機構 | 大藪 千穂 教授 |
| 岐阜大学教育学部 | 小野 泰彦 先生 (社会科) |
| 兵庫県 神戸市立神陵台中学校 | 久保田 諭 先生 (国語科) |
| 愛知県 刈谷市立朝日中学校 | 松本 美幸 先生 (国語科) |
| 千葉県 芝浦工業大学柏中学校 | 司会…当センター職員 |

※在籍校・役職は座談会当時のものです。

本コンクールに取り組んでいて、先輩の先生から「やるといいよ」という話を聞いて毎年取り組んでいます。本校での位置づけも小野先生の学校と一緒に夏休みの課題として国語科で作文を出しています。刈谷市では、生活作文、読書感想文、詩を募集しています。他にもいろいろな会社からこういう作文募集やっていますよっていう案内がたくさん舞い込んできて、その中から国語科の先生たちで子供に書かせたい作文を取捨選択して、8つの選択肢を一通りにしています。保険に関することは学校では教えてくれなくて、お金の使い方だとか子供たちが大人になった時に知りたいなって思うことが学校ではなかなか教えられていないという現状があります。自分自身も保険のことを全然知らなくて、結婚して数年経った時に保険に入らなきゃねっていう話になって、自分も保険の勉強をしたぐらいなので、子供たちからしたら、保険はわからない未知なるものかもしれません。親に聞いたり自分で調べたりして、義務教育の中で、自分で勉強して本コンクールに取り組むことは重要だと思っています。

松本…本校でも国語科の夏休みの宿題の1つとして取り組んでいます。夏休みの課題作文の候補として、毎年多少入れ替えはありますが、8個くらいの作文を選択肢として一覧にしています。コロナ禍前までは本コンクールは必須で3年間取り組ませていましたが、現在は1年生必須、2・3年生任意として取り組ませています。

をやりたいけれどもダメなんですよ？」みたいな、ちょっと諦めているような感じのところもありました。「やるときはやる」というところもあります。が、今までの1年生と比べるとそういう感じの印象を去年の1年生は受けました。今年の1年生は、ちょうど入学してきた時が、少しコロナが収まりつつあるような、希望が見えた感じの春でした。そのため、今年の1年生は小学校の時にできなかった例えば運動とか、ずっと我慢していたことを中学校になってやるぞ、みたいな感じで結構元気な子供たちが集まってきたという印象を受けています。またコロナの感染状況によって、ハイブリッド授業をしていますが、生徒たちに何か困ったことがあったら連絡してねと教員のメールアドレスを伝えると、今までと比べて、ちょっとしたことで生徒からどんどん質問が来るようになりました。大藪…大学でもコロナ禍の影響を受けています。今年の大学3年生が、コロナ禍が始まったときの1年生になります。そのころはまったく対面授業がなかったもので、今の3年生は学生同士があまり仲良くなれていなくて、勉強面も含め、3年生のケアが非常に重要だと感じています。



「調べ、書こう」 「教科間連携」の重要性

司会…それでは、本コンクールに取り組むにあたり、具体的な指導

方法や取り組みにあたっての課題などについて教えてください。
 小野・生徒たちがなかなか「書く」ことをしなくなってきた時代だと感じています。私の社会科の授業では、指定した新聞記事について自分の意見を考え、書かせることをしています。やはり普段から「書く」ということが、作文の課題にもつながり、非常に良いことだと思っています。本コンクールの課題として、生命保険についてなかなか教科書にも説明がなく、書くことが苦手な子にとっては大変かなと感じています。金融経済の分野で保険とかを取り上げてくれれば、作文を書くにはちょうどいいと思っています。生徒たちは入試を意識しており、入試に作文が必要な学校もありますので、生徒たちにとって自分の意見を書くというのは非常に良いことだと感じています。

久保田・本コンクールは作文の規定枚数が2〜4枚となっていて、分量としては、今の子供たちにとっては取り組みやすいかもしれません。また、マンガやワークシートが用意されているのは大変有難いです。少し気になることがあるとすれば、表彰された作文を読んでいると、エピソードを元に書かれている作文があると思いますが、自分の家庭内の情報を書くことになりそうです。そういった面は本コンクールの特徴でもあり課題でもあるのかなと感じました。あと、家で生命保険に入っているか生徒にインタビューをするように伝えただけ、生命保険に入っていない子がいたりすると、自分の中でどのように指導して良いか迷うことがあります。

大藪・確かに作文に書かれていることが多い家庭内の情報は私も気になってました。また、生命保険に入っていない子供たちが、自分の家は入っていないからダメなんじゃないかと思わないよう、配慮が必要だと感じました。松本・生徒たちが作文を書くときに自分の体験談と、調べて書くという書き方があると思います。本校の場合、中1・中2・



松本先生

サポートツールの有効活用

司会・当センターでは作文に取り組みにあたり、先生方や中学生の皆さんをサポートする各種ツールをご用意しています。マンガや調べたことを書き込むことができるワークシート、今年度からはマンガのキャラクターが生命保険に関する内容を解説する動画を公開しました。まずは各種資料の活用方法からお聞かせください。

小野・今年度、映像によるサポートツールとして各種動画ができたことが、非常に大きいと思います。起承転結とか序論・本論・結論といった作文の書き方が学べて助かっています。

久保田・用意していただいているマンガやワークシートを使い、家でインタビューしてきたことや、私の知っている保険の話をしてから書かせています。3年生には全国賞に入った自分の中学校の先輩の作文を全員に配って読ませています。その作文を読んだ後に、その作文の良さは何なのかを子供たちに意見を出させます。「難しい言葉を使っていない」「保険に関する説明をあまりせず、会話の中で保険のことが分かるような書き振りになっている」とか出てきます。入賞している良い作品の特徴として、話の上がり下がり、盛り上がるの振り幅が大きいということを押さえさせて、流れを考えて意識して書くときやすいかもしいよと指導しています。

松本・例えばエピソードを中心に書く場合には、インタビューの勉強と絡められますし、調べ学習をして書く場合は、社会科や家庭科であるとか、生命保険文化センターさんで出前授業とかもあるので、自分たちだけで生徒たちに色々なネタを提供できなければ、力を借りて生徒に学んでもらうことも1つの方法として考えられるかなとイメージしています。実際の指導としては、各種資料がとても充実しているので、1年生に対して原稿用紙の使い方や作文の書き方資料を使って作文はこういうふうを書いていったらいいんだよ、と説明をしています。2・3年生にはプラスアルファで金融教育やキャリア教育と絡めて展開できると、生徒たちも1つのテーマに

中3と3年間書く生徒もいるので、例えば段階を経て、例えば中1の時には身近なエピソードで書いてみよう、中2になったらもうちょっと調べたことを混ぜて社会全体のことも入れながら書いてみようとか、学年に応じて書く内容をこちらの方から指導してもいいのかなと思っています。

大藪・どうしてもエピソードが入っていると、作文として国語的には感情を揺さぶるような内容になっていくけど、じゃあ、生命保険についてはどうなのかなというのと、また別問題かもしれない。



大藪教授

松本・生徒本人たちが知らない保険のことについて作文を書くということは、どちらかというと保険の授業というよりも、インタビューをすることが大切になってきます。国語の教科書の中でも、お家の人にインタビューをしてみようといったものがありますが、お父さんやお母さんでもいいし、おじいちゃんやおばあちゃんでもいいし、多分君たちは今保険の知識はないだろうから、まずは聞いてもらって伝えていきます。学習指導要領の中で高校では金融教育に焦点が当てられてきていますので、国語科だけではなく、社会科であるとか、総合学習的な形で教科を超えたところで、生徒たちに金融教育ができればいいと思っています。もし協力してもらえれば、社会科や家庭科などで、同時期に保険をとりあげて補っていたらければ、さらに生徒たちが書きやすいのではと思っています。まだちょっとそこまでは話を広げられていないんですけど。

大藪・松本先生がおっしゃられたことって、すごく大事だなんて思っています。一般的には国語科の先生が作文という目線で、あとは生命保険ということで、金融教育という目線から社会科あるいは家庭科の先生が触れることが多いと思いますが、その辺の連携ができるって一番良いのかなと思います。

対して発展的な感じで追っていきけるのかなと考えています。司会・各種ツールについて改善点や要望などはございますでしょうか。小野・作文の書き方についてこちらで作ったものを生徒たちに配布していましたが、動画があるとそれが必要ないくらい、社会科としては大変助かっています。ただ、それを順番に見せたらいいのか、人によって感覚は違うと思いますが、初めて見る人にとってはおすすめの順番があるのかなと思います。

久保田・作文の書き方のところですか。丁寧に書かれていて、分かりやすくいいなと思っただんですが、個人的にはある程度文章として書かれた例文みたいなものがあるといいなと思いましたが。松本・3〜5分の短い動画を見ていくのは非常にリズムが良くいいなと思いましたが、結構全部見るとなかなかボリュームがありますよね。長い動画もあるので、すっきり出来るところはもう

ちょっとすっきりさせていいのではと思いました。あと、マンガがすごく充実しているの、動画があるのであれば、マンガを教材みたいにしたらどうでしょうか。例えば、問とかを立てて、その動画を見て、マンガに学んだことを書き込んでいけるような、そういう

ような学習もできるような冊子にしても面白いんじゃないかな。大藪・原稿用紙のデータを使い、メールで提出できる方法もあるといいかなと思いましたが。それから動画については、長いというか本数が多いように感じたので、もうちょっとコンパクトにしても良いかと思いました。



サポートツール

司会・本日は貴重なお話をお聞かせいただき誠にありがとうございます。今後の運営の参考にさせていただきます。